

自己評価結果公表について

放課後等デイサービスMogen

「自己評価結果公表の7つの項目」についての会議を行いましたので、以下その内容を公表いたします

会議日： 令和6年1月22日 公表日： 令和6年2月29日

	検討事項	会議内容
①	利用する障がい児及びその保護者の意向、障がい児の特性、障がい特性、その他の事情を踏まえた支援を提供するための体制の設備の状況について	登録人数：放デイ25名、児発2名 1日の利用人数：平均約11名 保護者の意向については、初回の面談・アセスメントにて聞き取り調査や紙面にて調査し、お子様の状況に合わせて個別支援計画を立てています。
②	従業員の勤務の体制及び、資質の向上のために取り組みの状況について	常勤職員6名。 月1回の研修、外部研修への参加 常時5名以上の職員を配置し、安全に努めています。業務上、疑問を持った時にすぐに経験者に聞ける体制を整えており、社内SNSを利用しながら、報告・連絡・相談等の連携を深めています。
③	事業の用を共する設備及び、備品等の状況	集団の部屋、個別の部屋、グループの部屋の3部屋に分かれて療育を行なっています。基本的には引き抜きで行いますが、静養室も兼ねているため、気持ちが落ち着かないお子さんなどの対応等でも利用しています。療育備品についてはおもちゃ会議を行ない、子ども達の興味関心が向くような備品を毎月増やすように取り組んでいます。グループ活動や個別支援など、それぞれの特色にあわせた備品の充実を心掛けています。
④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)について	毎朝の朝礼で子ども達の状況や療育内容、業務改善について話し合いを行なっています。子どもの安全を第一に、小さな事案もヒヤリハット報告を行ない職員に周知、改善提案を行なっています。今後も社内SNSを活用しながら情報共有に努めます。
⑤	関係機関及び地域との連携、交流等の取り組みの状況	今年度は新型コロナウイルスが落ち着いた為、保護者会を開催し療育についての勉強会を行なうことが出来ました。今後も保護者の皆様と交流できるイベントを検討していきたいと思っております。その他、関係機関としては、保育所等訪問支援事業との連携により、学校内での困りごとを把握、個別療育やグループ活動での療育支援に繋げています。相談支援事業所とは普段からお子さんについて報告を行い、情報収集に努めています。今後も情報共有できる体制作りを努めます。
⑥	利用する障がい児及びその保護者に対する必要な情報提供、助言その他の援助の実施状況	SNSを通じて、学校での困りごとや放デイでのご様子など、頻りに情報交換を行うようにしています。いつでも気軽に相談できるような関係を目指しています。 送迎時等でいただいた相談に関しては、できるだけ当日中にお返しできるように児童発達支援管理責任者が責任を持って対応しています。月に1回療育相談を設け、困りごとや支援の助言、情報提供等を行なっています。
⑦	緊急時における対応方法及び非常災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 職員/年に1回ずつ防犯・防災の研修を実施。 対象児童/年に1回ずつ防犯・防災訓練を施設内で実施しています。 8月:福津消防署と連携し、事業所内で避難訓練を行いました。消防士の方には避難訓練の様子を確認頂き、改善点など指導を頂いています。屋外では消火器の使い方や消火訓練、消防車見学を行いました。 12月:宗像警察署と連携し、事業者内で防犯についての講習をしていただきました。動画視聴やクイズを行ない防犯の意識を高めることができました。 来年度も、現場での実践も踏まえ、指導をしていただけるように、消防署や警察署にお願いしていく予定です。施設内には、災害時の避難場所を常に掲示し安全意識を高めています。
⑧	業務の改善を図るための措置の実施状況	職員間の役割分担を明確にし、業務の効率化を図っています。 また、ICTやSNSを積極的に使い、業務時間の短縮を意識して行っています。 それらの扱いが苦手な職員には、得意な職員が教え、すべての職員が使えるよう工夫しています。 また、職員の勤務時間や職員配置は法令を遵守し、子ども達の安全を第一に考えた事業所運営が出来るよう心掛けています。

まとめ

検討結果	<p>保護者の皆さまからの貴重のご意見を生かして、来年度に繋げていきたいと思えます。 お子さんたちひとりひとりの能力に合わせた、集団課題（やりこみ課題）を充実させていき、楽しく事業所に通える工夫をしていく必要があります。また、施設的环境や体制・非常時の対応など、保護者にお知らせがうまくできていなかったことの工夫が今後も必要だと考えます。</p>
自己評価	<p>学童の変わりとしての役割を担いながら、療育の充実を図っています。集団療育では、自分の好きなことを知り、実行できる・自立する力を。個別療育に関しては、そのお子さん一人一人に対し、今必要な支援をあぶりだすこと、得意不得意を明確にすることを。グループ療育では、お友だちとのやりとりや協力することの大切さを軸に行っています。 また、土曜日の利用に関しては、普段の療育で行っていることを発揮できるような工夫をしており、お子さんたちの将来の自立に向け支援できる体制を常に整えています。 学校生活においても、将来のビジョンを意識できるようなやりとりを先生としながら、お子さんや保護者の皆さんにも将来どのような生活を送っていくかを評価等を用いて、説明し、意識していただけるように心がけています。</p>
改善目標	<p>職員の知識や経験を増やしていくための研修への参加の増加 お子さんひとりひとりの特性を意識した評価の充実 職員全員の療育としてのレベルアップ 緊急時の対応の再認識、緊急時を想定した準備の再確認 保護者へのお知らせ方法の再確認 子どもたちが「楽しい」と思える環境づくり</p>